

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 「薬物乱用防止教室」
- 2 対 象 6 年児童、教職員
- 3 専門医 阿久津 吉男 医師
(山形県立こころの医療センター)
- 4 実施月 9月
- 5 内 容(キーワード)
タバコ・酒・薬物が依存してしまう仕組みと体への影響



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*薬物等を使用した人の萎縮した脳の話や、肺の写真など、依存による悪影響の具体例を教えていただき、児童も真剣に聞き入っていた。児童の感想も、自分のこととして講義を聴いていた様子が伺えるため、薬物等の乱用防止に効果的であった。

②保健教育における校内連携について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*年度始めに計画を立てて、実施することができた。また、児童生徒の実態やお話していただきたいことについて、校内で情報共有ができ、より実態に合った内容となった。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*阿久津医師からの講話は今回で5回目にあたる。専門的な立場から、子どもたちに寄り添った内容になっており説得力があった。児童だけでなく、保護者も含めた講演会等も今後検討し、医療機関との連携を深めていきたい。

〔受講者の感想など〕

- タバコを吸うと吸っている人よりも周りの方に害があることに驚いた。
- 普通の風邪薬も飲み方を間違えると死んでしまうことがわかった。薬の使い方に気をつけたい。
- 親たちにもタバコやお酒の害について教えたい。
- お酒や薬物に依存しないように、好きなことをたくさん見つけたい。

〔教科やその他の指導との関連性〕

- 体育科「保健領域」 病気の予防

